

3. 課題と対応方針

項目	課題等	対応方針
巡回方向（一方向）	・巡回は一方向としたことから、両方向での運行を希望する意見があった。	・他市の事例では、両方向で一方向2時間に1便とすれば乗降客が減っているため、一方向で1時間に1便が望ましいと考えるが、説明会等で逆回りや両方向の意向を把握したうえで決定する。
積み残し	・狭小な道路を運行するため車両を小型車としたことから、積み残しを懸念する意見があった。	・Mバスの乗降調査から各コースの区間最大乗車数は9~32人であることから、小型ノンステップバスの乗車定員（乗務員を除き、最大で座席15、立席19の計34人）以下であり、積み残しはないと想定されるが、今後の需要予測で積み残しが想定されるルートについては、一部時間帯の頻度を上げるなど運行ダイヤ等の調整で積み残しの防止を図る。
所要時間が長い	・市民意向を反映したルートとしたことから、巡回所要時間が長いとする意見があった。	・説明会等で市民意向を把握するとともに、バス事業者等の協力を得ながら効率的・効果的な運行について検討し、場合によっては一部ルートを見直して所要時間の短縮を図る。
松寿荘への乗り入れ	・全てのルートで松寿荘は乗り入れせず、東側の市道中央線にバス停を設定したことから、乗り入れを希望する意見があった。（Mバス導入経過を鑑み、配慮してほしい。）	・松寿荘への乗り入れの有無は、説明会等で市民意向を把握するとともに、乗り入れにおける課題（バックでの転回時の安全面の確保や運行許可の条件等の整理、経費の増加等）を整理したうえで再検討する。 ・また、意見があった松寿荘利用者が多い時間帯だけの乗り入れや別途シャトルバスでの対応などの可能性についても検討する。
新規ルートの設定	・Mバスや路線バスが運行していない新規ルートを設定したことから、沿道自治会等に対する説明の必要性に関する意見があった。	・説明会等で十分説明して理解を得るために、新規ルートの沿道自治会に対しては説明会の開催案内を手渡しするとともに、新規ルートを検討している旨を伝える。
廃止ルートの発生	・Mバスルートのうち、一部区間をルート設定していない廃止ルートが発生したことから、沿道自治会等に対する説明の必要性に関する意見があった。	・一部廃止ルートが発生したため、説明会等で十分説明して理解を得るために、沿道自治会に対しては説明会の開催案内を手渡しするとともに、説明会等での市民意向を踏まえ、代替バス停の新設や一部ルートの見直し等を再検討する。
新規バス停の設置	・新規バス停36箇所を設定したことから、交通安全面での関係機関との協議や地先住民に対する説明の必要性に関する意見があった。	・新規バス停については、説明会等で市民意向を把握するとともに、道路管理者、交通管理者と協議のうえ、設置箇所を特定する。併せて、地先住民に対して十分説明し理解を得る。
路線バスとの役割分担	・東部北ルートが路線バスの山麓線ルートと競合している部分が非常に多いことから、山麓線ルートのうち巡回ルートを見直して、箕面駅へのアクセスの充実（増便）を求める意見が多かった。	・路線バスである山麓線は、箕面駅へアクセスするフィーダー型（鉄道アクセス）と市内巡回するローカル型（市内移動）の2つの性格を持ったバスである。 ・山麓線のうち巡回ルートは東部北ルートと競合している部分が非常に多いため、路線バスはフィーダー型、新たなバス交通はローカル型に役割分担することにより、山麓線の巡回ルートを廃止して箕面駅への往復ルートを増便することで、フィーダー型として充実が図れることなど、路線バスとの連携や一体化について、説明会等での市民意向を踏まえたうえで、バス事業者その他関係機関と協議・調整する。
その他全体	・運行計画案全体について可能な限り、関係機関と協議・調整したが、詳細協議は完了していないとの報告があった。	・説明会等で市民意向を把握するとともに、道路管理者、交通管理者及びバス事業者その他関係機関との詳細協議結果により、運行計画案を再検討する。